

ちずばんこう 地図の番号	チェックポイント写真 しやしん	かいせつ 解 説
3		これも小さな古墳です。この森の中には約20個の古墳があり、「川角古墳群」とよんでいます。古墳は1400年前のお墓。とても古いお墓は、ずっとこわされなかったんですね。鎌倉街道上道を歩いた人たちも、古墳をながめながら歩きました。 4のQRコードをよみこむと、この写真のくわしい解説が見れます。
4		チェックポイント3にある古墳の上に石が立っています。この石は「庚申塔」といい、江戸時代初めより流行した庚申信仰によって建てられたものです。この庚申塔は、地元の大類村(今は大字大類)のお寺と村の人々が建てました。 QRコードをよみこむと、2と3の写真のくわしい解説が見れます。 
5		ここは「崇徳寺跡」という遺跡です。といっても、お寺の建物は発見されず、お墓のあとが見つかっています。まん中あたりに古墳があり、そのまわりのお墓のあとからは、板のような石の塔「板碑」や、やけた人のほねが入ったつぼやかめが発見されました。 QRコードをよみこむと、この写真のくわしい解説が見れます。 
6		延慶3年(1310)にたてられた「延慶の板碑」です。この板碑は、もともと崇徳寺跡にたっていました。高さ約3m、厚さ約8cmの大きな板碑です。上のほうには仏様の記号(梵字という)、仏様のお経の言葉、まん中には、たてた年などがほられています。 QRコードをよみこむと、この写真のくわしい解説が見れます。 
7		現在は大類グラウンドになっているこの場所は、鎌倉街道上道にそった「苦林宿」という宿場だったといわれています。毛呂山の鎌倉街道上道は「越辺川」にぶつかり、川を越えて、今の鳩山町につづきます。越辺川には、橋がかかっておらず、宿場は川をわたる人でにぎわっていたようです。 QRコードをよみこむと、この写真のくわしい解説が見れます。 